

III 期非小細胞肺癌に対するハイパーサーミアを同時併用した化学放射線療法の治療成績

産業医科大学

放射線科学 河野裕一郎、大栗隆行、矢原勝哉、戸村恭輔
中原惣太、垣ノ内祥、興梶征典

戸畑共立病院

がん治療センター 今田 肇

【目的】 III 期非小細胞肺癌に対するハイパーサーミアを併用化学放射線療法の治療効果と安全性を評価した。

【対象と方法】 2007 年 3 月より 2014 年 5 月までの間に、ハイパーサーミア併用化学放射線療法を施行された III 期非小細胞肺癌の総 23 名を対象とし遡及的に検討した。放射線治療の総線量は中央値 70Gy (50-76Gy)であった。化学療法は CBDCA+PAC を 20 例、CDDP+S-1 を 2 例, CBDCA+S-1 を 1 例に用いた。ハイパーサーミアは全例で 8MHz 誘電型加温装置を用いて中央値 6 回(2-12 回)を、放射線治療期間中に同時併用した。

【結果】 腫瘍縮小効果は CR:が 9 例(39%)、PR が 13 例(57%)、SD が 1 例(4%)であった。3 例(13%)において照射後に手術が追加された。3 年全生存率, 局所制御率, 非増悪生存率および非遠隔転移生存率はそれぞれ 73%, 59%, 51%, 41%であった。5 年ではそれぞれ 46%, 59%, 51%, 41%であった。予後因子解析では非増悪生存率は N0-2 症例が N3 症例と比較し有意に良好であった(p=0.045)。急性障害は Grade 2 の皮膚炎を 6 名と食道炎を 3 名に認めた。晩期障害として Grade 2 の放射線肺臓炎を 2 例に認めた。

【結語】 ハイパーサーミア併用化学放射線療法は重篤な副作用の発症なく安全に施行可能であり、また有望な治療効果であった。